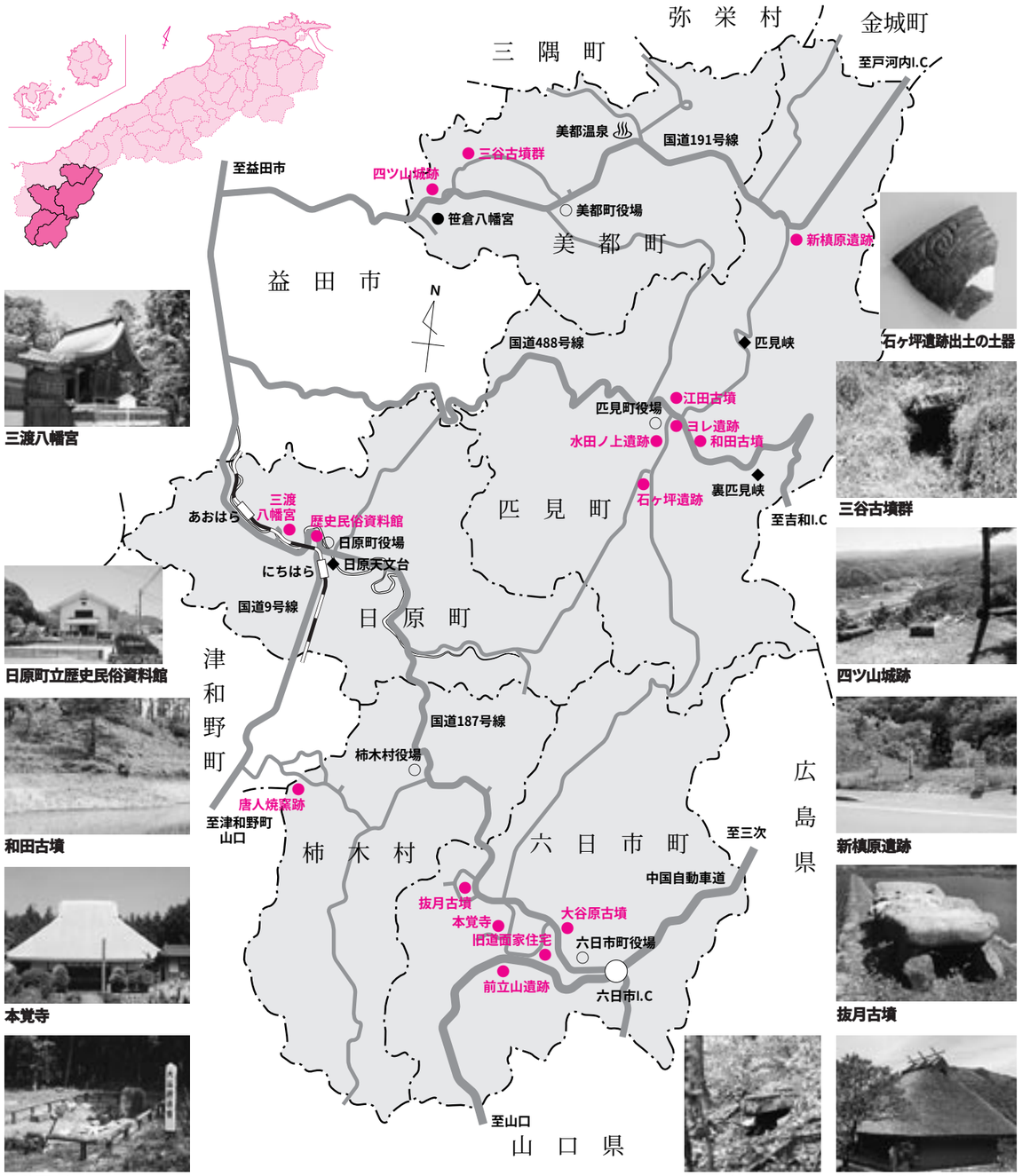
清流に歴史の面影を浮かべて

# 美都町・匹見町・柿木村・日原町・六日市町




三渡八幡宮

日原町立歴史民俗資料館

和田古墳

本覚寺

大谷原古墳

石ヶ坪遺跡出土の土器

三谷古墳群

四ツ山城跡

新槙原遺跡

抜月古墳

江田古墳

旧道面家住宅





ゆず畑に古墳があった

## 三谷古墳群

美都町三谷

<指定>町・史跡

三谷川沿いの狭い谷間にある民家の裏山にあり、横穴式石室が2つ露出している。周囲はゆず畑として大きく開墾されているため、少しわかりにくいが、石室の保存状態はよい。家の人に断ってから入ろう。

<交通>美都町役場から車10分

<いにしえ>3巻P37

4つ子の山城

## 四ツ山城跡

美都町仙道

寄り添うように並んだ、標高約233mの同形・同高の4つの山。この4つで1つの山城を構成していた。鎌倉時代、益田氏により築城され、江戸時代まで続いたと言われる。一の岳、二の岳の平坦部から下に降りた北斜面には、井戸跡も残されている。現在は頂上までハイキングコースとなっていて、眺めは抜群。

<交通>美都町役場から車10分、下車後徒歩25分

古墳がいっぱい

## 江田古墳

匹見町千原

<指定>町・史跡

匹見の町並みを見おろす高台にある古墳。小さな横穴式石室があり、けっこう残りがよい。山の斜面には古墳のものと見られる石が散見される。

<交通>匹見町役場から徒歩15分

<いにしえ>3巻P37

見学可能な古墳

## 和田古墳

匹見町匹見

<指定>町・史跡

未調査だが、石室が露出している。のちに建てられた社(お堂)が祀られている。1931年ごろに、このうちの一部から刀が出土したと伝えられている。道路脇にあり、わかりやすい。

<交通>匹見町役場から車5分

縄文人に学ぼう

## 石ヶ坪遺跡

匹見町紙祖

<指定>町・史跡

紙祖川と小原川との合流点にある、縄文時代の遺跡。発掘調査によって九州から来たと考えれる土器や石器が見つかり、貴重な発見となった。山間の谷間で活動する縄文人を思い浮かべると楽しい。案内板あり。

<交通>匹見町役場から車5分

<いにしえ>4巻P10

道端の「2万年前」

## 新槙原遺跡

匹見町道川

<指定>県・史跡

匹見川と赤谷川の合流地点の、狭い段丘上にある遺跡。県下では数少ない旧石器時代の遺跡。火山灰が厚く堆積しており、縄文時代の層の下から2万年前ごろの石器が出てきた。

<交通>匹見町役場から車30分

朝鮮半島の技術を伝えた

## 唐人焼窯跡

柿木村福川

<指定>村・史跡

豊臣秀吉による文禄・慶長の役（1592、1597年）を契機に、朝鮮半島から渡ってきた陶工・李郎子によって築かれた窯。陶器を焼いた窯としては、県内最古の窯の1つ。李郎子は結婚はしたが子はなかったといい、付近には墓がひっそりと残されている。

<交通>柿木村役場から車20分

バラエティーに富んだ農具

## 日原町立歴史民俗資料館

日原町日原

1981年に開館。古くから日原の庶民の生活を支えてきたさまざまな生活用具、農具など、6000点にものぼる民俗資料を収蔵し、所狭しと展示されている。復元された農家のいろり端もある。外観は蔵造りで、内部はかなり広い。9時から4時30分。月・木・祝休館。一般200円、中高生100円、小学生50円。

<交通>ＪＲ日原駅から車5分

<連絡>08567-4-0933

彫刻が躍る神社

## 三渡八幡宮

日原町池村

<指定>県・建築

本殿は1743年の造営。江戸時代中期の当地方の建築様式をよくあらわしていると言われ、たくさんの彫刻を施した豪華なもの。当時、大阪で部材を加工し、現地で組み立てたものという。今でいうプレハブ建築のはしりだ。1991年、台風19号により破損を受けたが、1994年までに復元修理が行われた。境内には県内一のイチイガシの巨木がある。

<交通>ＪＲ青原駅から車5分

四季の花も楽しめる

## 本覚寺

六日市町朝倉

<指定>県・工芸（鰐口）

寺宝である鰐口は吊るして綱を振って打ち鳴らし、合図として使用する仏具の一種で、1421年に那智神社が造らせ、奉納したもの。1961年、県の文化財に指定された。庭にはさまざまな花が植えられ、四季折々の花が楽しめる。

<交通>中国自動車道六日市I.C.から車10分

<連絡>08567-8-0640

道路に眠る遺跡

## 前立山遺跡

六日市町注連川

中国縦貫道のため発掘された遺跡。弥生時代から古墳時代の村跡で、竪穴住居跡が23棟も検出された。出土遺物の一部は六日市町立図書館に展示・公開されている。

<交通>図書館まで六日市I.C.から車5分

<連絡>08567-7-1111（図書館）

<いにしえ>7巻P21

雪に耐えた民家

## 旧道面家住宅

六日市町注連川

<指定>国重文・建造物

江戸時代文化・文政期(1804～1830)に建てられたと推定されている、石見地方の代表的な庶民住居。外面はほとんど増改築の跡が見られず、往時の姿そのままを残す。屋根は茅ぶきで軒下を低くし、冬の寒さを防ぐ工夫がしてある。1969年国の重要文化財に指定された。見学は、事前に町教育委員会へ連絡が必要。

<交通>中国自動車道六日市I.C.から車10分

<連絡>08567-7-1111（六日市町教育委員会）

<いにしえ>4巻P28

奥壁が直立

## 大谷原古墳

六日市町広石

<指定>町・史跡

全長約4mの横穴式石室を持つ古墳。墳丘は消滅しており、石室も基底部と奥壁しか残っていない。石室からは大刀や勾玉、管玉などが出土している。案内板や説明板もあり、すぐわかる。

<交通>中国自動車道六日市I.C.から車10分

<いにしえ>3巻P37

田んぼの真ん中、まる裸の古墳

## 抜月古墳

六日市町抜月

<指定>町・史跡

水田の真ん中にポツンとある古墳。別名、石積古墳ともいう。墳丘はなくなっていて、石室のみ残存しており、復元すると4m以上になる。中からは刀や紡錘車、須恵器の壺が出土している。

<交通>中国自動車道六日市I.C.から車10分

<いにしえ>3巻P36

### おたっきー情報

六日市町は県内で最初に高速道路（中国縦貫道）が通った町。このような工事に先立つ発掘調査が、現在県内各地で盛んに実施されている。広大な面積を発掘調査する大規模発掘の「はしり」だ。

### そのほかにも…

匹見町は縄文時代の遺跡の宝庫だ。ここで紹介した石ヶ坪遺跡以外にも、多くの遺跡が知られている。紙祖の水田ノ上遺跡や匹見のヨレ遺跡では、石を集めた祭場や土偶、土版、勾玉などの祭の道具が出てきた（詳しくは6巻を参照）。イセ遺跡では縄文時代の墓の可能性のある穴がたくさん出てきているし、上の原遺跡ではおよそ8000年前の島根県でも最古級の土器や石器がたくさん出ている。そのほかにも門田遺跡、石仏頭遺跡、前田中遺跡、新槙原遺跡など枚挙にいとまがない。